

U.S. Indicators

発表日:2023年2月7日(火)

米国 1ヵ月で拡大トレンド回復(1月ISM非製造業)

～供給制約やインフレ圧力は緩和傾向～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年1月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、55.2(前月49.2)と前月比+6.0%p上昇し、市場予想50.5(筆者予想51.8)を大幅に上回った。12月に暴風雪の襲来によって49.2に急低下したが、1月に拡大トレンドを回復した。全構成項目が前月から上昇し50台となった中で、需要の強さを映じて、新規受注、活動指数が高い水準に上昇し、総合指数は米景気の拡大を示す水準を回復した。ただし、米国の非製造業部門は、インフレ高進、金利急騰のほか、人手不足、生産能力不足など多くの逆風を受け減速基調を辿っている。また、供給制約やインフレ圧力は徐々に緩和に向かっていることが示された。

1月は、18業種中10業種の拡大に減少した(12月:11業種の拡大)。拡大した業種は、強い順に農林水産業、公益、その他サービス、企業向けサービス、公的部門、教育サービス、宿泊・飲食サービス、不動産業、医療・社会支援、専門・科学・技術サービスと続いた(下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)。一方、縮小した業種は、運輸・倉庫、小売業、芸術・娯楽・レクリエーション、鉱業、建設業、情報産業、金融・保険、卸売業の8業種(12月6業種)に増加した。

企業からの報告では、業界や企業によって異なるが、大半の企業は事業が前向きな方向に進んでいることを指摘した。ただし、1月の雇用は、一部の企業はまだ労働力不足の状態にある一方、人員削減を実施している企業もあり、全体では変わらなかったと報告された。

業種別にみると、宿泊・飲食サービスでは、売上見通しは、原材料の入手可能性とリードタイムが課題を抱えながらも改善しているほか、消費者マインドの回復で人々はより贅沢品にお金を使うことに前向きになっていることから楽観的と指摘された。また、農林水産業は、人件費などが制約になっているが事業は全体的に堅調と報告した。さらに、医療・社会支援は、医療用品の一部でサプライチェーンの混乱が続いているが、労働力不足も適度に改善され、高い需要に対応できており、23年予測は現在楽観的と指摘。情報産業では、市場にまだ不確実性があるが、サプライチェーン問題が緩和されており、23年予想は慎重ながらも楽観的と報告。その他サービスでは、受注が堅調だが、サプライチェーンの問題により、配送に遅れが生じていると指摘。

一方、建設業は、新築住宅市場が住宅ローン金利の上昇により、依然として弱いと報告したほか、専門・科学・技術サービスは、年末の減速後に販売活動がわずかに増加したが、金利上昇による内外の景気後退懸念から、23年第1四半期の売上が22年の同時期よりも低くなると予想されていると指摘した。また、公益は、供給の継続性に関する懸念が続いていると報告。さらに、卸売業は、新規住宅着工の減速により事業が前年よりもわずかに鈍化したほか、eコマースのトラフィックや売上が減速していると報告した。

ISM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動
22/01	60.4	61.3	62.2	52.2	65.8	57.4	82.9	45.9	49.4
22/02	57.2	56.2	57.3	49.0	66.2	64.2	83.2	53.0	50.8
22/03	58.4	57.5	59.2	53.5	63.4	64.5	82.9	61.0	51.7
22/04	57.5	59.2	55.8	49.7	65.1	59.4	83.2	58.1	52.3
22/05	56.4	55.8	58.1	50.3	61.3	52.0	80.9	60.9	51.0
22/06	56.0	57.2	56.2	48.7	61.9	60.5	79.1	57.5	47.5
22/07	56.4	59.0	59.1	49.5	57.8	58.3	73.2	59.5	45.0
22/08	56.1	59.3	60.4	50.2	54.5	53.9	72.3	61.9	46.2
22/09	55.9	58.3	59.2	52.3	53.9	52.5	69.8	65.1	44.1
22/10	54.5	55.6	56.8	49.2	56.2	52.2	70.9	47.7	47.2
22/11	55.5	61.6	55.8	50.6	53.8	51.8	70.1	38.4	47.9
22/12	49.2	53.5	45.2	49.4	48.5	51.5	68.1	47.7	45.1
23/01	55.2	60.4	60.4	50.0	50.0	52.9	67.8	59.0	49.2

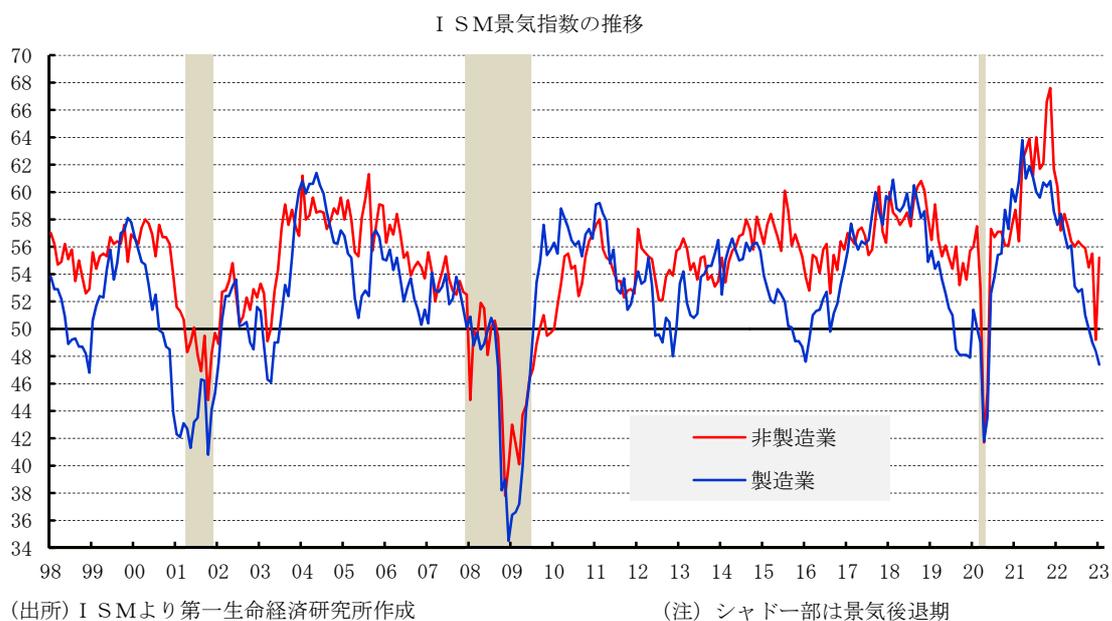
(出所) ISM

非製造業総合指数の構成項目では、新規受注が60.4（前月45.2、前月比+15.2%p）、活動指数が60.4（前月53.5、前月比+6.9%p）、入荷遅延が50.0（前月48.5、前月比+1.5%p）、雇用が50.0（前月49.4、前月比+0.6%p）と上昇した。新規受注、活動指数は高い水準を回復しており、需要が依然強いことを示している。総合指数への寄与度では、新規受注が前月比+3.80%p、活動指数が前月比+1.73%p、入荷遅延が前月比+0.38%p、雇用が前月比+0.15%pの押し上げ寄与となった。

サブ項目では、新規輸出受注が59.0（前月47.7、前月比+11.3%p）と上昇し、米国サービス輸出が拡大に転じたことを示唆している。一方、輸入は53.0（前月52.7、前月比+0.3%p）と小幅上昇し、サービス輸入の増加傾向の持続を示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が67.8（前月68.1）と小幅低下し、インフレ圧力緩和の持続が示されたものの、労働コスト、電気部品等の継続的な上昇のほか、牛肉、炭酸飲料、化学物質、卵、電子部品、食品・飲料、天然ガス、大豆製品の上昇によって高い水準にとどまっており、インフレ圧力が依然強いことを示した。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、1月に54.4（12月49.1）と前月比5.3%p上昇した。四半期では1月に製造業が47.4と10-12月期の49.1から低下した一方、非製造業が55.2と10-12月期の53.1から上昇したことで、ISM総合景気指数は54.4と10-12月期の52.7から上昇しており、1-3月期の米国需要の持ち直しを示している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

